

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

新潟リハビリテーション大学作業療法学専攻

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数							非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数			
医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻	0人	1人	3人	2人	6人	6人	6人	0人	8人	7.7人
計	0人	1人	3人	2人	6人	6人	6人	0人	8人	7.7人

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
<input type="radio"/>	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	基礎ゼミⅠ	30	星野浩通	兼任
		基礎ゼミⅡ	30	若菜翔哉	兼任
		基礎ゼミⅢ	15	長谷川裕	専任
		基礎ゼミⅣ	15	長谷川裕	専任
		基礎ゼミⅤ	15	大矢薫	兼任
		基礎ゼミⅥ	15	未開講	
		臨床倫理学	15	山村千絵・村井絹子	兼任
		地域文化論	15	桑原猛	兼任
		日本語表現	15	上松恵理子	兼任
		心理学概論Ⅰ	15	宮岡里美	兼任
		心理学概論Ⅱ	15	宮岡里美	兼任
		医療行動科学Ⅰ	15	和田剛宗	兼任
		医療行動科学Ⅱ	15	和田剛宗	兼任
		社会と健康Ⅰ	15	中川明仁	兼任
		社会と健康Ⅱ	15	長谷川裕・藤本聡	専任
		法律と医療Ⅰ	15	向田怜史	兼任
		法律と医療Ⅱ	15	向田怜史	兼任
		コミュニケーション心理学Ⅰ	15	西村信子	兼任
		コミュニケーション心理学Ⅱ	15	西村信子	兼任
		統計学Ⅰ	15	中川明仁	兼任
		統計学Ⅱ	15	中川明仁	兼任
		基礎生命科学	15	平田恒彦	兼任
		医生物化学Ⅰ	15	平田恒彦	兼任
医生物化学Ⅱ	15	平田恒彦	兼任		

		人間支援科学 Ⅰ	15	西村信子	兼任
		人間支援科学 Ⅱ	15	丁子雄希	専任
		物理学Ⅰ	15	藤本聡	専任
		物理学Ⅱ	15	藤本聡	専任
		レクリエーション	15	田嶋雄洋	兼任
		スポーツ実践	15	栗生田博子	兼任
		情報処理技法 Ⅰ	30	浅海岩生	兼任
		情報処理技法 Ⅱ	15	浅海岩生	兼任
		コンピューターと人間の接 点Ⅰ	15	浅海岩生	兼任
		コンピューターと人間の接 点Ⅱ	15	浅海岩生	兼任
		医療英語ベー シック	15	鈴木美和子	兼任
		医療英語アド バンス	15	伊藤知明	兼任
		医療英会話ベー シック	15	Sam Suleiman	兼任
		医療英会話アド バンス	15	Sam Suleiman	兼任
		中国語	15	橋本親往	兼任
		医療英文抄読 法Ⅰ	15	原亜由美	兼任
		医療英文抄読 法Ⅱ	15	原亜由美	兼任
		国際理解演習 Ⅰ	15	小池郁代	兼任
		国際理解演習 Ⅱ	15	小池郁代	兼任
基礎専門分野	人体の構造と機能及 び心身の発達	解剖学・総論Ⅰ	15	松村博雄	兼任
		解剖学・総論Ⅱ	15	松村博雄	兼任
		解剖学・総論Ⅲ	15	松村博雄	兼任
		解剖学・各論Ⅰ	15	西野幾子	兼任
		解剖学・各論Ⅱ	15	西野幾子	兼任

	解剖学実習	45	松村博雄	兼任
	生理学 I	15	山口賢一	兼任
	生理学 II	15	山口賢一	兼任
	生理学 III	15	宮岡洋三	兼任
	生理学実習	45	長谷川裕・藤本聡/木村和樹・星野浩通・高橋圭三	専任/兼任
	神経生理学 I	15	黒瀬雅之	兼任
	神経生理学 II	15	黒瀬雅之・山村健介	兼任
	病理学概論	15	平田誠市	兼任
	医学概論	15	鈴木薫	兼任
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学 I	15	高橋英明	兼任
	公衆衛生学 II	15	高橋英明	兼任
	臨床心理学概論 I	15	和田剛宗	兼任
	臨床心理学概論 II	15	和田剛宗	兼任
	発達心理学 I	15	西村信子	兼任
	発達心理学 II	15	西村信子	兼任
	内科学 I	15	杉谷想一	兼任
	内科学 II	15	杉谷想一	兼任
	整形外科学 I	15	栗生田博子	兼任
	整形外科学 II	15	栗生田博子	兼任
	臨床神経学 I	15	高橋英明	兼任
	臨床神経学 II	15	高橋英明	兼任
	小児科学	15	長谷川聡	兼任
	精神疾患とその治療	15	的場已知子	兼任
	リハビリテーション工学	15	星野浩通	兼任
	リハビリテーション医学	15	高橋明美・小林量作・真柄彰	兼任
	救急救命医学	15	村上市消防本部・村井絹子	兼任
	薬理学	15	桑島治博	兼任
	栄養学	15	宮岡里美	兼任
	感染症学	15	平田恒彦	兼任

		高次脳機能障害学概論	15	伊林克彦	兼任
		摂食・嚥下障害学概論	15	山村千絵	兼任
		基礎運動学Ⅰ	15	栗生田博子	兼任
		基礎運動学Ⅱ	15	若菜翔哉	兼任
		基礎運動学Ⅲ	15	若菜翔哉・押木利英子	兼任
		予防リハビリテーション学	15	松林義人	兼任
		老年心理学	15	宮岡里美	兼任
		認知症	15	伊林克彦	兼任
		心理測定法Ⅰ	15	中川明仁	兼任
		心理測定法Ⅱ	15	中川明仁	兼任
		知覚・認知心理学Ⅰ	15	宮岡里美	兼任
		知覚・認知心理学Ⅱ	15	宮岡里美	兼任
		学習・言語心理学Ⅰ	15	宮岡里美	兼任
		学習・言語心理学Ⅱ	15	宮岡里美	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	藤本聡・高橋明美・大矢薫	専任/兼任
		社会保障論	15	鈴木昭	兼任
		公的扶助論	15	林正海	兼任
		権利擁護と成年後見制度論	15	林正海	兼任
		地域包括ケア論	15	林正海	兼任
		福祉財政論	15	鈴木昭	兼任
		チーム医療学Ⅰ	15	押木利英子・栗生田博子	兼任
		チーム医療学Ⅱ	15	長谷川裕・藤本聡/ 高橋明美・長島裕子	専任/ 兼任
専門分野	基礎作業療法学	運動学実習	30	柳澤博	専任
		作業療法学概論Ⅰ	30	丁子雄希	専任
		作業療法学概論Ⅱ(実習)	30	藤本聡	専任
		基礎作業学	15	長谷川裕	専任
		基礎作業学実習Ⅰ	45	長谷川裕	専任

	基礎作業学実習Ⅱ	45	長谷川裕、藤本聡	専任
	作業療法理論学	15	丁子雄希	専任
	作業療法研究法	30	森本千恵	専任
	作業療法管理・運営学		丁子雄希	専任
作業療法評価学	作業療法評価学総論	15	柳澤博	専任
	身体機能作業療法評価学(実習)	30	知名規人	専任
	精神疾患作業療法評価学	30	藤本聡、長谷川裕	専任
	発達過程作業療法評価学	15	田中善信	兼任
	高次脳機能作業療法評価学	15	丁子雄希	専任
	高齢期作業療法評価学	15	藤本聡	専任
	作業療法画像評価学	15	森本千恵	専任
作業療法治療学	中枢神経疾患作業療法学	30	柳澤博	専任
	中枢神経疾患作業療法学演習	30	柳澤博	専任
	運動器疾患作業療法学	30	丁子雄希	専任
	作業療法学内実習Ⅰ	30	知名規人	専任
	作業療法学内実習Ⅱ	30	知名規人	専任
	作業療法学内実習Ⅲ	30	知名規人	専任
	精神疾患作業療法学Ⅰ	15	森本千恵	専任
	精神疾患作業療法学Ⅱ	15	森本千恵	専任
	精神疾患作業療法学演習	30	森本千恵	専任
	精神障害構造論Ⅰ	30	長谷川裕	専任
	精神障害構造論Ⅱ	30	長谷川裕	専任
	発達過程作業療法学Ⅰ	15	田中善信/森本千恵	兼任/専任
	発達過程作業療法学Ⅱ	15	小川友美	兼任

	高次脳機能作業療法学Ⅰ	15	丁子雄希	専任
	高次脳機能作業療法学Ⅱ	15	丁子雄希	専任
	高齢期作業療法学Ⅰ	15	藤本聡	専任
	高齢期作業療法学Ⅱ	15	藤本聡	専任
	義肢・装具学(実習)	30	須田裕紀、藤目智博	兼任
地域作業療法学	日常生活適応学Ⅰ	30	柳澤博	専任
	日常生活適応学Ⅱ	30	柳澤博	専任
	地域作業療法学	15	藤本聡	専任
	就労支援作業療法学	15	長谷川裕	専任
臨床実習	見学実習	90	藤本聡	専任
	評価実習	225	長谷川裕	専任
	地域実習	90	長谷川裕	専任
	臨床実習Ⅲ(総合実習Ⅰ)	360	長谷川裕	専任
	臨床実習Ⅳ(総合実習Ⅱ)	360	長谷川裕	専任
	臨床実習Ⅴ(地域実習)	90	長谷川裕	専任
特論	作業療法技術学Ⅰ(アートセラピー)	15	長谷川千種/他	兼任/専任
	作業療法技術学Ⅱ(音楽療法)	15	大竹孔三	兼任
	作業療法技術学Ⅲ(特別支援教育)	15	森本千恵	専任
	チャレンジゼミⅠ	15	不開講	
	チャレンジゼミⅡ	15	不開講	
	チャレンジゼミⅢ	15	不開講	
	作業療法研究ゼミⅠ	15	専攻ゼミ教員	専任
	作業療法研究ゼミⅡ	15	専攻ゼミ教員	専任

		作業療法総合演習Ⅰ	30	藤本聡	専任
		作業療法総合演習Ⅱ	30	知名規人	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1



●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
患者への対応等についての見学	2年前期	作業療法学概論Ⅰ	1年前期
		作業療法学概論Ⅱ（実習）	1年後期
患者の状態等に関する評価の実践	3年後期	作業療法評価学総論	1年後期
		身体機能作業療法評価学（実習）	2年前期
		精神疾患作業療法評価学	2年前期
		高齢期作業療法評価学	2年前期
		発達過程作業療法評価学	2年後期
		高次脳機能作業療法評価学	2年後期
		作業療法画像評価学	3年前期
通所リハビリテーションの見学	3年後期	地域包括ケア論	1年後期
		日常生活適応学Ⅰ	2年前期
		日常生活適応学Ⅱ	2年前期
		地域作業療法学	2年後期
患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療並びに治療効果判定の実践	4年前期	中枢神経疾患作業療法学	3年前期
		中枢神経疾患作業療法学演習	3年前期
		運動器疾患作業療法学	3年前期
		作業療法学内実習Ⅰ	2年後期
		作業療法学内実習Ⅱ	3年前期
		作業療法学内実習Ⅲ	3年後期
		精神疾患作業療法学Ⅰ	3年前期
		精神疾患作業療法学Ⅱ	3年前期
		精神疾患作業療法学演習	3年前期
		精神障害構造論Ⅰ	3年通年
		精神障害構造論Ⅱ	3年通年
		発達過程作業療法学Ⅰ	3年前期
		発達過程作業療法学Ⅱ	3年前期
		高次脳機能作業療法学Ⅰ	3年前期
		高次脳機能作業療法学Ⅱ	3年前期
		高齢期作業療法学Ⅰ	2年後期
		高齢期作業療法学Ⅱ	2年後期
		義肢・装具学（実習）	3年通年
内部障害作業療法学（実習）	3年通年		

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	山村千絵
組織の開催頻度	適時
組織の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中長期計画の進捗確認</li> <li>・ 全学の自己点検評価報告書の作成</li> <li>・ ガバナンスコードの点検</li> <li>・ 補助金調査項目に係る教育改革の点検</li> <li>・ 外部認証評価（大学基準協会）への対応</li> </ul>
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 URL： <a href="https://nur.ac.jp/about/public/hyoka/">https://nur.ac.jp/about/public/hyoka/</a> <a href="https://nur.ac.jp/about/public/org/">https://nur.ac.jp/about/public/org/</a>

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	学部教務委員会
	委員構成等	副学長、各専攻長、事務局担当職員
	改善の仕組みの実際	毎年、シラバスに記載する注意事項について学部教務委員会で検討し、適時改善を図っている。決まった内容については、教員に周知し、各自が内容を点検しシラバスを作成している。 また、各科目について、学生からの授業評価アンケートを用いてシラバスに関する意見を学部教務委員会にて集約・解析し、その結果を基に次年度のシラバスの記載内容に反映させる仕組みがある。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2020年（令和2年）に財団法人大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受け、その結果、同協会の大学基準に適合していると認定された。「自己点検・評価報告書」ならびに「大学評価結果」については、大学ホームページで公開している ([https://nur.ac.jp/reha/wp-content/uploads/file\\_20210326\\_hyoka01-1.pdf](https://nur.ac.jp/reha/wp-content/uploads/file_20210326_hyoka01-1.pdf))  
一般社団法人リハビリテーション教育評価機構より外部評価を受審し、2022年度に作業療法学専攻の適合認定を受けている (<https://nur.ac.jp/reha/wp-content/uploads/SCAN-9783.pdf>)。